令和６年度　千葉県における「かたくちいわし太平洋系群」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（１）千葉県におけるカタクチイワシの漁業実態

千葉県におけるカタクチイワシは、太平洋系群に位置付けられており、銚子沖から内房海域にかけて、主にまき網漁業、定置漁業により漁獲されている。令和 4 年の海面漁業生産統計では、本県の海面漁業の生産量のうち、カタクチイワシの漁獲が 5 パーセント弱を占めており、本県の主要漁獲対象種となっている。

また、カタクチイワシは全国的に見ても漁獲量が多く、経済的価値も高いことから、令和 7 年 1 月から国による漁獲可能量（TAC）による管理がステップアップ方式で開始される予定。

（２）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

①目標

1　目標管理基準値 112 千トン（最大持続生産量を達成するために必要な親魚量）

2　限界管理基準値 28 千トン（最大持続生産量の 60 パーセントを達成するために必要な親魚量）

②該当する資源管理協定

「かたくちいわし太平洋系群」に関係する資源管理協定（以下、協定という。）は、下表の 10 協定であり、約 20 名がカタクチイワシを対象とするそれぞれの協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、2 協定となっている。

協定	備考	協定	備考	協定	備考
天羽		館山		九十九里	
鋸南町保田・波左間		東安房（本所）	◎	海匝	
鋸南町勝山	◎	鴨川市			
岩井富浦		夷隅東部			

◎　本検証の対象協定

③自主的取組

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考（該当する協定）
定置漁業	◎　休漁期間の設定	①6 月から 12 月の間、大型定置、小型定置それぞれ合計約 2 週間 ②8 月から 9 月のうち約 2 週間	①鋸南町勝山 ②東安房（本所）

◎　協定に記載されている取組

（３）資源管理の効果の検証

本県におけるカタクチイワシの漁獲量は、年による変動が大きく、過去には最大で約 15 万トンの漁獲があったが、直近 5 か年（2018～2022 年）の平均では約 7 千トンとなっている（図 1）。

国の令和 6 年(2024)度資源評価では、親魚資源量は増加傾向であり（図 2）、親魚量は最大持続生産量（MSY）を実現する水準を下回るが、漁獲圧も下回っているため、神戸プロットでは左下の黄色ゾーンとなっている（図 3）。

また協定参加者による検証（以下、「自己点検」という。）では、漁獲量及び CPUE（単位努力量あたり漁獲量）は、2 協定中 2 協定で減少と判断しており、国の資源評価結果と一致していない。また、魚価（単価）は 2 協定中 1 協定で維持、1 協定で低下と判断している。

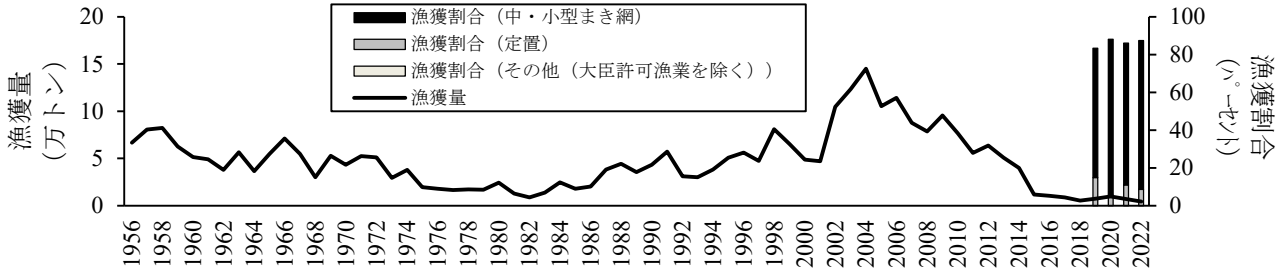

図 1　千葉県におけるカタクチイワシの漁獲量と漁業種類別漁獲割合（海面漁業生産統計調査）

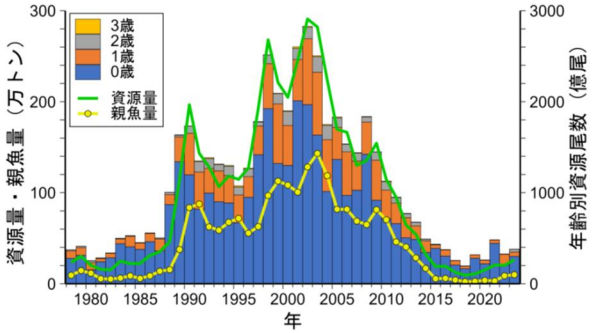

図 2　資源量・親魚量・年齢別資源尾数の推移
（水研機構 HP　令和 6(2024)年度カタクチイワシ太平洋系群の資源評価）

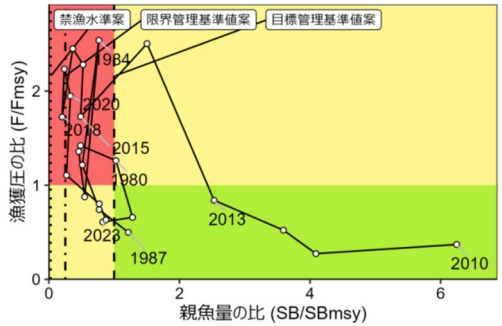

図 3　神戸プロット
（水研機構 HP　令和 6(2024)年度カタクチイワシ太平洋系群の資源評価）

（４）効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

カタクチイワシは、現在の国の資源評価では資源状況が回復傾向とされているが、当該魚種は県を跨いで広域を回遊することや漁場への来遊が海況変化の影響を受けるといった特徴をもっている。今回の検証対象協定は「待つ漁業」の定置漁業であるため、海況の影響を受けて沿岸への来遊量が変化した際に、漁獲量が大きく変動する場合が考えられ、国の資源評価と自己評価で異なる結果となった可能性がある。今後も国の資源管理基本方針等の内容を遵守し、現在の取組を継続していくとともに、国の資源評価結果や海洋環境に注視し、状況に応じた対応を検討していくことが必要と考えられる。